

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

特発性正常圧水頭症の診断ガイドライン作成に関する研究

研究分担者 青木茂樹 順天堂大学医学部附属順天堂病院放射線科

研究要旨： 特発性正常圧水頭症の画像診断ガイドラインについて Evidence based なアプローチにつき検討するとともに、脳MRIを用いた診断バイオマーカーの検討を行った。

A. 研究目的

特発性正常圧水頭症の画像診断ガイドラインの検討と、ガイドラインとなり得る脳MRIのバイオマーカーの検討。

Irie R, Tsuruta K, Hori M, et al.

Neurite orientation dispersion and density imaging for evaluation of corticospinal tract in idiopathic normal pressure hydrocephalus. Jpn J Radiol. 2017;35:25-30 (謝辞有り)

B. 研究方法

Evidence based なアプローチで特発性正常圧水頭症の画像診断ガイドラインの作成のための文献調査を行う。合せて、脳MRIを用いたバイオマーカーについて、検討する。

2. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

なし

(倫理面への配慮)

病院倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

診断ガイドラインに必要な文献等を絞り込み、他班との分担を決定した。バイオマーカーについて、拡散MRIにて、新たな知見が得られた。

D. 考察

特発性正常圧水頭症の診断ガイドラインに画像を入れることは髄液所見とともに客観的な指標として重要な可能性がある。

特発性正常圧水頭症の皮質脊髄路は、比較的特徴的な拡散定量指標の変化を示すが、ベンディングの影響があることが示唆された。

E. 結論

特発性正常圧水頭症の診断ガイドラインに画像を入れることは妥当と考えられた。

特発性正常圧水頭症の皮質脊髄路は、比較的特徴的な拡散定量指標の変化を示すが、ベンディングの影響があることが示唆された。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表